

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-(事務局用)	高校生と行政、地域の連携による、自分が主体の幸せなまちづくり	埼玉県本庄市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	新七高「祭」		

(注1)地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2)アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	本庄 123		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→	2. 学生	
チームメンバー数(公開)	3名		
代表者情報	秋山友花		
メンバー(公開)	金井聡哉、丸山新奈		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名(メンバー一覧ページを参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OK なら右欄の○を選択 →

OK

＜チームメンバー名簿:メンバー一覧ページ＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、**どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください**。将来実現した場合に、**新規性があり、実践したくなり、魅力的でワクワクするようなアイデア**を求めます。その結果、**課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待**されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして**解決したい課題のポイント**を、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

高校生の本庄市への愛着不足
本庄祇園まつり、本庄まつりの担い手不足

※以上の課題解決のために**『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください**。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

(参考)よいアイデアを生むには**関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)**ことが大切です。

<提案するアイデアの内容>

「祭りにしかないあの熱く燃える熱狂の中で主役的体験をしてみたい!」「神輿を担いでみたい!」「高校3年間で過ごす本庄市で祭りに関わり、熱狂することで思い入れが強くなるのでは?」そんな思いから【新七高「祭」七高祭×本庄祇園まつり】を考えた。

既存の七高祭の仕組みの良い部分と、本庄市の伝統行事である祇園まつりを掛け合わせることで、本庄市内の高校に通う高校生が、地域の人との関わり思い入れを増やし、本庄市に青春時代の居場所を創出することを期待する。また、本庄祇園まつりが抱える担い手不足の現状の解消に貢献する。

(本庄市には、夏に本庄祇園まつり、こだま夏まつり、秋には、本庄まつり、こだま秋まつりがあるが、今回は、本庄祇園まつりのみに着目する。)

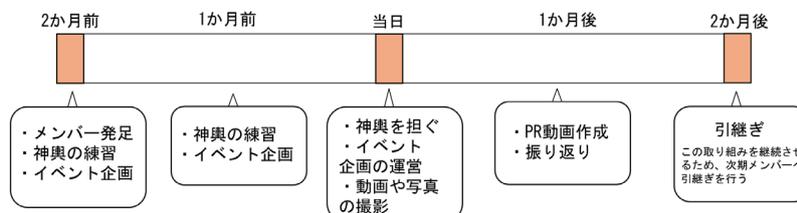
「七高祭」→高校生がやってみたい!に挑戦でき、応援してくれる体制がある。また、本庄市のあらゆる課題を知り、解決するアプローチを考えることができる。学校、学年、性別の壁を越えた開放的な空間と個性溢れるワクワクする空間

×

「本庄祇園まつり」→年に一度しか味わえない熱い心躍る伝統行事。本庄にしかなく、本庄でしか味わえない体験。地元の人が多く集まり、本庄が一つになる。地域の人との関わりが活発になる。誰もが楽しめる。本庄の歴史、まち、人を一気に自分の五感で知ることができる。



(Table1) アイデアの概要



(Table2) アイデアのスケジュール

・七高祭の仕組み(6校共同プロジェクト、たてのつながり、行政・地域・学校の連携)を活用する。

・部活や勉強に日々忙しい学生に少しでも多く参加してもらえるよう、【4か月間】という比較的短い期間で行う。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

（七高祭は、約 1 年の長期プロジェクトだが、より多くの関係人口の創出のため、短く設定した。）

・多様な関わり方を提供する。（企画、運営、PR、神輿担ぎ、出店等）また、生徒会の人だけ、運動部の人だけ、文化部の人だけの等に特定の人のみが活躍するのではなく、すべての人が活躍できる環境にする。

・企画の例として、各地区と各学校がコラボし、対抗合戦を行う。神輿を制作する。などが挙げられる。

本庄市に通う高校生と、地元の方が本庄祇園まつりをきっかけにかかわることによって、高校生間だけではなく、地元の方と親交を深めることができ、本庄祇園まつりの存続への貢献を期待する。また、祭りという地域を盛り上げる活動を共にすることによって、「祭りの成功」という共通目標を達成することが絆を作ることもつながる。

祭りに主体的に関わることで、地域の人との深い関係を構築できたり、神輿を担ぎ地域を練り歩くことから、地域の歴史、雰囲気、街並みなど地域について知れたりすることができる。それにより、七高祭で求められる高校生らしいアイデアや課題解決のためのアイデアをより創出しやすくなるのではないかと考える。また、お祭りは、地域で長い間受け継がれてきた伝統であり、そこに関わる人たちは、地元への愛が並大抵ではないと考える。

高校生が地元の人と関わることは、地域の悩みや現状を身をもって知っている人たちから声を聴くことができる最大のチャンスであり、祭りを通して本庄市の町・人の魅力を知った高校生が、地域愛着を持ち、今ある本庄市の課題解決に動くきっかけや、高校生のライフプランにおいて、本庄市に定住すること、子育てをきっかけに戻ってきてもらえる可能性が高まると予想できる。

本庄の高校生が本庄祇園まつりに関わることは、祭りだけでなく、本庄市事態を「盛り上げ」、官民公の組織で協力し合う体制を高校生が架け橋となって作ることができる。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由(なぜ)について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのかを、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考: 以下のように理由を書いていきます>

※根拠: このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け: その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。(定性データを含めて歓迎)

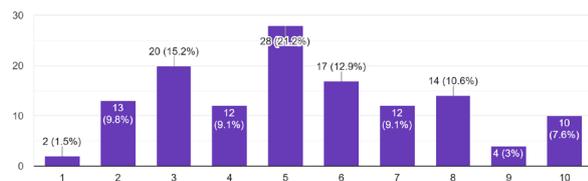
<本庄市内の高校に通う高校生の本庄市への愛着の現状>

<調査方法>
調査手法: Googleフォーム
サンプル数: 132人 (高1年85人, 高2年21人, 高3年26人/居住地本庄市40人, 市外92人)
調査期間: 11/21~12/3
調査対象: 本庄市内の高校に通う高校1~3年生
調査内容: 本庄市に対する愛着度と本庄の祭りに対する認知度、関わり調査
質問: 学年、部活、居住地、本庄市への愛着(10段階評価)、本庄祇園まつり・本庄まつりの認知度、来場経験、関わり方

本庄市内の高校に通う高校生に対し、アンケートを行った(Table3)。その結果、本庄市への愛着は、5が最も多く、特段愛着を持つ人は少ないことがわかる。一方で全く持っていない人は少ないことも分かる(Table4)。また、本庄祇園まつりや本庄まつり(以下「本庄の祭り」とする。)の認知度は、75.8%(100人)であった。知っていると感じた人の内、訪れたことのある人は、73%(73人)であり、関わり方としては、「お囃子をたたく」が最も多く(31人)、次いで、「会場の整備、管理」(25人)、「神輿を担ぐ」(23人)と、祭りの主役としての関わり方であった。一方、知らないと感じた人の本庄の祭りへの関わり方としては、「運営」が最も多く(14人)、次いで、「会場の整備、管理」(8人)、「お囃子をたたく」(7人)、「PR」(7人)と、祭りの裏方としてのかかわり方であった。

(Table3)調査方法

本庄市に対して愛着はどのくらいありますか?
132件の回答



(Table4) 高校生の本庄市への愛着度

秋山、金井は、早稲田大学本庄高等学院で過ごす中で「本庄には何も無い。」「ただの田舎」という声を多く聞いたり、学校と駅の往復のみで、本庄市について全く知らないで高校生活を終える学生を沢山見たりしてきた。また、本庄駅内にあるポスターなどを通して本庄市内で行われるイベントについて知ることができるが、部活やテスト期間などの理由なかなか参加することができない現状がある。

<七高祭>

課題

- ・早稲田本庄以外参加者は生徒会役員。
- ・意欲の持ち様が様々であることや長期プロジェクトであることからだんだん参加する人が限られてきてしまう。
- ・限られた地域の人としか関われない
- ・本庄市の課題解決に高校生の視点が求められるが、伴走してくれる大人によってありきたりなものになってしまう。
- ・夏休み期間活動があまりない
- ・本庄市について知ることにはできるが、地域との継続した関わりはないため、居場所づくりに繋げられない。

強み

- ・本庄市のことを様々な視点から深く知ることができる。
- ・他校との交流が深まる。
- ・個性が輝く。
- ・地域の人と交流ができる。
- ・やってみることに挑戦できる。
- ・年上・年下の縛りが無い。
- ・行政&民間&地域&学校の連携
- ・様々な大人と関わることができ、将来の職業の選択肢が広がる。

七高祭とは、本庄市内の6つの高校(早稲田大学本庄高等学院、本庄第一高等学校、埼玉県立本庄高等学校、本庄東高等学校、埼玉県立児玉高等学校、埼玉県立本庄特別支援学校高等部)に通う高校生が学校や学年の垣根を越えて集まり、一年をかけて行政や地域の方に伴走していただきながら、本庄市内の課題解決ややってみることに挑戦するプロジェクトである。1月の合同文化祭では成果を様々なカタチで発表する。(本庄市 HP 参考)

秋山は、高校一年生の頃から七高祭に参加し、今年で3年目になる。(Table5)は、秋山が感じた課題、強みをまとめたものである。七高祭の仕組みは、本庄市が長年取り組んできた強みであり、本庄市の大きな魅力であると考えている。

(Table5) 七高祭の課題、強み(秋山作成)

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

秋山自身、七高祭に参加したことで、既存の仕組みやものに対する面白そうな視点の発見や創造性、コミュニティの拡大につながり、将来の視野が大きく広がった。また、本庄市には、既存観念に囚われない多種多様な職種の人が挑戦できる温かい環境が創られつつあることを実感した。（マーケットの多かったり、本庄駅北口の商店街にてまちづくりの新たな手法を試している団体本庄デパートメントがいたりする。）高校入学前は、本庄市について全く知らなかったが、七高祭を通じて、沢山の地域の人と関わったり、イベントに参加したり、取り組みや本庄の魅力を知ったりすることができ、今では、本庄市にとっても愛着を持っている。

<本庄祇園まつり>



本庄祇園まつりは台長の八坂神社において疫病を追い払うため、神輿を担いだのが祭礼のはじまりである。毎年海の日の直前の土日に開催される。寛文3年（1663年）から始まり、2024年現在361年の歴史をもつ。神輿がメインであり、台町では、獅子舞いの奉納が行われる。獅子の奉納舞は、平成5年3月10日に埼玉県指定無形民俗文化財に指定されたが、認知度は低い。祇園まつりの最後には、疫病退散や罪や穢

れの祓いなどのために茅の輪ぐりやお姿流しが行われる。（本庄市役所商工観光課細野房保氏からいただいた資料より）神輿は、西組、東組に分けられ、神輿の巡行を行い2度セレモニーが行われる。また、本庄鳶職組合による梯子乗りが行われる。（本庄観光協会「7月13日（土）・14日（日）『本庄祇園まつり』開催」https://www.honjo-kanko.jp/news/20240619_7588.html 参考）

1)担い手不足の現状があり、近年本庄祇園まつり開催時には、近隣地域の団体から神輿を担ぐ人の応援に来てもらっている。（本庄市役所商工観光課細野房保氏より）

2)本庄まつりは、お囃子の練習などに長期間を要したり、地区ごとに様々な伝統が受け継がれていたりするため、本庄まつりよりも本庄祇園まつりの方が本庄市とあまり関わりがない人も比較的気軽に参加しやすい。（本庄市役所商工観光課細野房保氏より）

3)本庄祇園まつりや本庄まつりの担い手不足へのアプローチとして小学校などで教室を開催している。（早稲田大学本庄高等学院2年岩崎百花氏により※小学3年生から本庄の祭りに関わる）

4)祭りの時期になると、まつりに参加するために、地元を離れた若者たちも戻ってくるように、祭りが「戻ってきたい！参加したい！」と思える居場所となっている。（児玉駅付近のだるまや菓子店店主より）

<佐賀県唐津くんちとの比較>

丸山は、佐賀県出身であり、本庄の祭りとの比較を行った。本庄市は、他の祭りと比較し、外部の人が参加しやすい環境であると考えられる(Table6)。

	本庄祇園まつり	唐津くんち
概要	八坂神社を出発点に町中を見越しが走る。鳶職人による梯子乗り、獅子舞が行われる。	唐津神社を出発点に町中を曳山が走る。
成立時期	寛文三年（1662年）	寛文年間（1661～1673）
開催時期	毎年7月の海の日の直前	毎年11月の2日から4日
参加条件（お囃子、山車引き等）	地域の人なら参加できる。企業や個人問わず、本庄市に縁があれば参加可能。	地域でも決まったおうちの人しか参加できない。新しく人が入ることができない。

(Table6)本庄祇園まつりと唐津くんちとの比較(丸山作成)

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

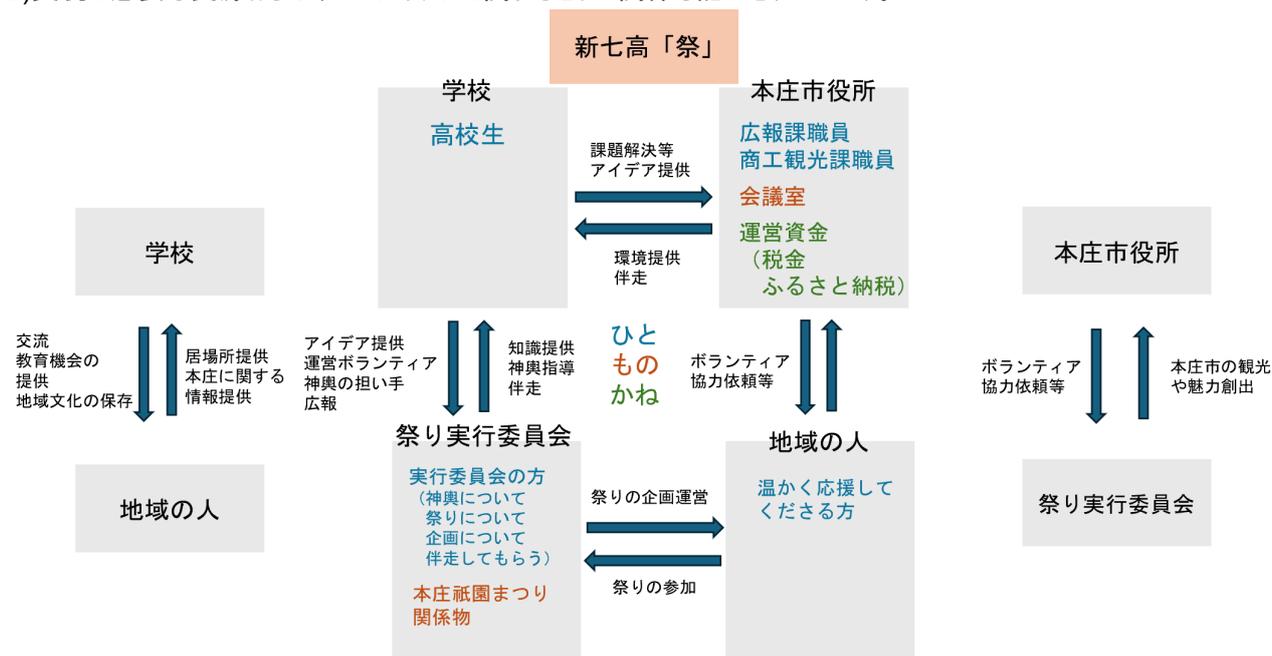
※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

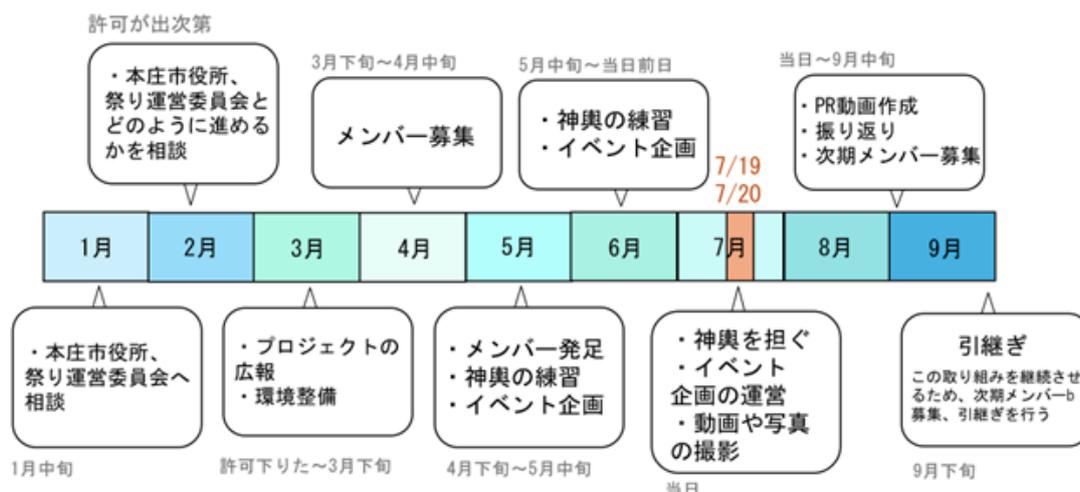
1) 実現する主体: 本庄市内の高校に通う高校生

2) 実現に必要な資源および、このアイデアに関わるヒトの関係も記した(Table6)。



(Table6) 実現に必要な資源とその関係(秋山作成)

3) 実現にいたる時間軸を含むプロセス



(Table7) 実現にいたる時間軸を含むプロセス(秋山作成)